

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
理気剤 行気剤 11		
かみうやくとう 加味烏薬湯	疏肝行気・止痛	烏薬・砂仁・木香・延胡索各 30g・香附子 60g・炙甘草 45g 粉末にし、1回 21g を生姜と水煎し、適宜に温服する。
済陰綱目	<p><主治> 肝鬱気滞、痛経 月経前から月経開始時に下腹部や乳房が脹って痛み、ゆううつ感、胸苦しい、悪心、暖気、腰が脹る、脈が弦洪などを伴う。</p> <p><病機> 肝鬱気滞による経行不暢である。 肝鬱のために気機が鬱滞して血の流通も渋滞し、衝任の経脈が不利になって経血が胞中に停滞するために、月経が不暢になり開始時に痛む。月経前には衝任の気血が充盈するが、肝鬱気滞があると気血の渋滞が顕著になり、月経前には肝経に属する下腹部両側や乳房が脹って痛む。ゆううつ感、胸苦しい、脈が弦洪などは肝鬱を、悪心、暖気、腰が脹るなどは肝気犯胃と筋緊張を示す。</p> <p><方意> 疏肝行気により気血を通暢する。 主薬は疏肝行気の香附子で、疏肝活血、止痛の烏薬・延胡索、および理気の木香が補助する。砂仁は芳香醒脾、和胃に、炙甘草は和中と諸薬の調和に働く。</p> <p><参考> 本方（加味烏薬湯）は香燥の薬物が多いので、血虚を伴う場合には慎重を要する。</p>	